

|          |                      |        |
|----------|----------------------|--------|
| 一金六拾錢    | 大正五年度分               | 西方はるの  |
| 一金壹圓貳拾錢  | 大正四、五年度分             | 西村なすの  |
| 一金六拾錢    | 大正五年度分               | 望月つや   |
| 一金參圓也    | 明治四四—大正四年度分          | 北村すゑの  |
| 一金六拾錢    | 大正五年度分               | 鷺島文    |
| 一金六拾錢    | 大正七年度分               | 山口さん   |
| 一金壹圓也    | 大正五年度分<br>四十錢餘       | 水田みつ   |
| 一金壹圓貳拾錢  | 大正五、六年度分             | 岡田みつ   |
| 一金壹圓八拾錢  | 大正三、四、五年度分           | 平田愛子   |
| 一金六拾錢    | 大正五年度分               | 内山ヒイ   |
| 一金六拾錢    | 大正五年度分               | 塚原をりえ  |
| 一金二圓     | 大正五、六、七年度分<br>(二〇錢餘) | 北村すゑの  |
| 一金六十錢    | 大正八年度分               | 吉田はつ   |
| 一金六十錢    | 大正六年度分               | 西方はるの  |
| 一金六十錢    | 大正六年度分               | 西村なすの  |
| 一金廿四圓六十錢 | 大正七年度分四十一名分          | 大正七、家卒 |
| 一金三十圓    | 大正七年度分五十名分           | 大正七、養卒 |
| 一金六十錢    | 大正八年度分               | 梶原かじ   |

會計報告 (自大正五年三月  
至同 六年二月)

收入ノ部

|              |         |
|--------------|---------|
| 繰越高          | 一〇三、〇八五 |
| 在校生雜誌代       | 三〇、六〇〇  |
| 會員會費         | 二二一、一四〇 |
| 計            | 三五四、八二五 |
| 支出ノ部         |         |
| 第十號雜誌印刷代     | 九六、六〇〇  |
| 雜誌發送費        | 七、一二〇   |
| 談話會三回開會費     | 一九、一四〇  |
| 臨時小冊子和譯代     | 二六、〇〇〇  |
| 振替用紙代及振替受入料金 | 二、〇四〇   |
| 帳簿類印刷新調費     | 七、四八〇   |
| 雜費           | 一、五五五   |
| 計            | 一五九、九三五 |
| 差引高          | 一九四、八九〇 |
| 收入ノ部         |         |
| 繰越高          | 一九四、八九〇 |
| 雜誌實費         | 五六、八五〇  |
| 會員年會費        | 一〇八、〇〇〇 |
| 利子           | 六〇〇     |
| 計            | 三六〇、三四〇 |

家事科學術談話會叢書一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六  
 納戸模型製作代 二五、〇〇〇  
 談話會四回講演謝禮 二七、〇三〇  
 全上開會雜費及研究費 二〇、二〇五  
 振替料金 六一〇  
 雜費 二、三四〇  
 計 二〇〇、三四五  
 差引高 一五九、九九五

編輯係より

會員の諸姉へ

種々の都合で豫定外に會報の發行が遅延いたしました。お申譯がありません。此度から家事科會報と改名いたしました。數年前から技藝科は家事科と改名されましたので其に伴つていたした次第でございます。諸姉には益々御元氣にて御活動の御事誠に結構に存じます。目下何れの地におきましても家事科の研究必要を認められまして日に發展の域に進みます事は私共にとりまして一層の勉強努力の必要をまします。つきましては多數の皆様御研究御經驗等の數々を御寄稿いただきたい。きましてお互の御意見を廣く御交換下さいましたならば此會報も益々「無くてならぬもの」となります事と存じます。故是非御多數の御寄稿を御願いたし

支出ノ部

今迄技藝科會の會計は餘り窮屈でもありませんでしたが、會員の數が増加いたしました。會報一回の發行にも七百部百二十圓といふ費用を要する様になりました。この十一號を發行いたしました後は會計は心細い様な有様になりましたので是非皆様から會費を御納めいただきたいのでございます。年會費六十錢でございますから、六十錢の倍數にして御送金下さる方が當會では都合が宜しいでございます。僅かの御送金は御厄介な事と存じますが先年より振替に加入いたしましたから其れを御使用下さいませ様に御願いたします。猶振替通信欄を御利用下さいまして何年の卒業、轉居、改姓などを御通知下さる様に御願いたします。

故安川先生

大正六年九月二十二日午前零時十七分、我等の敬慕し奉りし安川あい子先生は御病を以つて湘南の地に逝き給ふ。

先生は、明治十七年十月一日長野市に御誕生遊ばされ御幼時、長野縣師範學校附屬小學校に學び給ひ、のち長野市立高等女學校及同校補習科を経て、女子高等師範學校技藝科に御入學、同三十九年三月御卒業遊ばさ

會計係より